

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600027		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム めくもりの家 揖斐		
所在地	揖斐郡揖斐川町島291-1		
自己評価作成日	令和5年7月10日	評価結果市町村受理日	令和5年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvossvoCd=2192600027-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年8月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

園庭には季節の花々や果樹があり、利用者様が戸外で自然とふれあう機会が多くあります。少人数の特性を活かして、個性や生活習慣を大切にされた支援を心がけています。また、認知症の方が生活するホームとして様々な症状に対応できるように職員研修に力を入れています。協力医や行政、地域の方々にご協力していただき、連携しながら利用者様やご家族が安心して笑顔あふれるケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年までは新型コロナ感染予防の為、ZOOMによるリモート調査であったが、久しぶりの対面調査を行うことが出来た。自己評価の作成は、外部評価の意義を踏まえた上で、全職員で何度も検討しながら行っている。職員ヒアリングに於いても、良質な支援に努めている様子を聞くことができた。職員の家族にコロナ陽性者が出た際には、法人内で人的配置をして職員が安心して休める体制を作るなど、利用者のクラスター発生を防ぎ事態を乗り切っている。ホームの目標は「過去を懐かしみ未来を楽しめるめくもりの家」とし、どんな時も利用者が部屋に閉じこもることなく、自由に暮らせる支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)		
51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)		
52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)		
53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)		
54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		
55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で暮らすことに基づいた運営理念をつくり、一人ひとりの利用者様に合った個別ケアを職員で共有して統一したケアを提供している。職員研修で理念を共有して実践できるように努めている。	利用者が地域に密着した生活を続けられるよう、運営理念5項目について日々話し合いながら、職員間で統一した支援に努めている。理念は名札の裏と見やすい場所に掲示し、研修や振り返りを行いながら、利用者が安心して暮らせる支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事や清掃に職員が参加し、近隣の方とコミュニケーションを図っている。桜並木を散策し、地域の方との交流もある。畑で採れた野菜を持って来てくださる方もいて地域交流に繋がっている。	事業所の庭には季節の花が咲き、緑も多い。地域住民が気軽に訪問して花や樹木を眺めながら、利用者とお茶をしている。近隣住民からの野菜や果物の差し入れ等も多く、事業所の行事に招いている。地域の行事には利用者も参加し、地域の一員として交流できるよう支援している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では書面で現状報告や取り組みを伝えてきた。毎回意見書をいただいて情報共有、意見交換を行い、改善、向上に活かしている。7月より対面での会議を行う予定である。	書面会議の際は関係者に現状報告を行い、意見を求めている。届いた意見を運営に活かしている。7月から、対面での運営推進会議を再開している。コロナ禍での取り組み内容を報告し、有意義な意見交換ができています。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	広域連合や福祉課の方とは顔馴染みで、日頃から電話やメールで連絡をとり情報を共有している。行政主催の研修にも参加し、対面で意見交換やアドバイスをいただき、ケアの向上に努めている。	書面での意見交換の際には、毎回、行政から文書が届けられ、密な連携を情報共有をすることができている。日常的に事業所の状況を報告し、指導や助言も受けている。行政主催の研修や会議にも参加し、他事業所の報告を参考にしながら、利用者サービスにつなげている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を目指しケアの実践に努めている。利用者様が怪我をする恐れがある場合等、委員会を開き原因や対応案を検討している。また、研修会を開き全職員に理解を深めるよう取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会は定期的に開催し、事例を報告、対応策を検討し、身体拘束ゼロにつなげている。全職員を対象にした研修会で、事例検討を行いながら、身体拘束の弊害について学んでいる。施錠については、行動制限とならないよう努め、利用者の安全第一に取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の全体研修でも法令を再度読み上げ、意識の向上に努めている。普段より職員にストレスがないか聞き取りを行い、要因となることを排除、軽減できるよう話し合っている。	身体拘束・虐待の防止は、職員間で互いに意識合い、気が付いた時には話し合いを行って行っている。虐待防止委員会は定期的に開催している。また、管理者は、職員が自分の健康状態や悩みなどを相談できるよう場を設け、ストレス等が不適切なケアにつながらないように努めている。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	職員研修で日常生活自立支援事業や成年後見制度を学んでいる。また、ご家族から相談されることもあり活用できるように支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は対面にて行い、説明に十分な時間を使い、理解を得ている。また、改定時も文章を作成して分かりやすいように説明している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望書や面会時にご家族からの意見や思いを伺い、職員間で共有して実現に向けて話し合い実行している。利用者様からは日常生活の中で希望や意向を知る機会が多く、ケアに反映させている。	行政等の情報を参考に、出来る限り面会機会を持てるよう、家族に連絡を取り対応をしている。家族との面会は利用者の喜びであり、情報交換もスムーズに行う事ができる。管理者はケアマネでもあり、利用者の状態を家族に説明し意見交換をしながら、ケアプランに反映させている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は定期的に管理者会議を開催して、参加し、職員からの意見や提案を聞いている。介護に対しての意見や環境整備の意見等気軽に話し合える機会を作っている。	代表と管理者は、介護の基本は心と健康の充実と捉え、管理者会議で職員の意見を聴いている。提案や改善点を聞き、働きやすく明るい職場作りを目標に、環境整備にも努めている。法人内で職員交流なども行い、モチベーションを高めている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者は職員の生活環境に配慮して勤務時間等を考慮している。また、個々の能力を活かした仕事内容を工夫したり努力や実績を考慮するなどして働きやすい職場環境作りに努めている。	社会保険労務士指導の下、就業規則や雇用契約書が整備され、契約時に職員に説明、同意を得ている。ワーク・ライフ・バランスに配慮した就業条件や職場環境の整備を行っている。また、職員が心身ともに休むことができるよう、休憩室内で音楽を楽しむこともできるよう工夫している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員のケアの向上を目指し研修会を計画的に開催している。また、法人外の研修の積極的な参加や資格取得を進めている。	代表と管理者は、職員一人ひとりの介護力を把握しながら、法人内外での研修受講を推奨し、ケアの向上と資格取得の機会を支援している。職員が、家庭と仕事の両立が出来るよう配慮しながら、コミュニケーションを図り、職員教育に取り組んでいる。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	職員が外部の研修や勉強会等に積極的に参加し、同業者の方と意見交換、交流する機会を設け、ケアの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	世代を超えた考え方、知識等に職員も刺激を受けている。行事や巡る季節を共に過ごす中、一緒に笑い合う関係性を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や生活歴等を通してご本人の意向を把握している。ご本人と意思相手ができない場合は、普段の生活から考察したり、ご家族等に話を聴き意向の把握に努めている。	職員は、利用者の表情を見ながら雰囲気作りを心掛け、傾聴研修で学んだことを活かしながら思いを把握している。また、新聞やテレビ等の話題から引き出した、利用者の思いや意向も記録に残し、職員間で共有しながら、本人の希望に近い支援を行えるよう努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケアの中で利用者様に対する変化や気づきを職員間で話し合い、改善に努めている。専門職、医師の意見をケアプランにも反映させ、担当者会議の中でご家族に説明、意向を伺い作成している。	介護計画作成会議には家族も参加し、利用者の状態について説明、意見交換をしている。職員の支援体制やホーム内での利用者の生活を実際に見てもらうことで、より家族の理解も深まっている。家族と相談しながら、現状に即した介護計画を作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録簿にケアプランを記載し、モニタリングを行いながら実践、結果、気づき、改善ができるよう記録している。それをケアプランに反映して見直しに活かしている。	日々、介護計画に基づいたケアと職員の取り組み状況から、結果が良い場合も悪い場合も、申し送りノートと介護記録、朝礼や職員会議で報告し情報を共有している。改善点についても検討しながら、見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時や電話等で近況報告の際にご家族様からの要望を伺い、その要望に応えている。週1回の接骨院の通院や個別リハビリ、散歩等行い、充実した一日が送れるよう努めている。	利用者が日々の生活で転ばないように、個別リハビリや歩行の確認など、同法人の接骨院で指導を受けながら、安全に暮らせるよう支援に組み入れている。体調に配慮しながら、健康体操で足腰の強化にも取り組んでいる。緊急時には、早期に対応ができる。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しながら生活している。ご近所の電気屋さんの敷地にある桜の花を見に散歩に行くなど、施設周辺の地域交流に参加し、自然に触れ季節を楽しんでいる。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時かかりつけ医は自由に選択できることを説明し、馴染みのかかりつけ医を継続される方もいる。協力医の往診は月2回であるが、緊急時には臨時往診していただける。ご家族が往診に立ち合ったり医師から直接説明を受ける事で安心を得ている。	入居時にかかりつけ医について説明し、利用者・家族が選択している。従前のかかりつけ医継続の場合は家族が受診同行している。月2回、協力医の往診を受けることができ、緊急時には、臨時往診もある。入院の際には、家族が安心できるよう対応を整えている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	バイタルリンクにて利用者様の情報を共有している。入院時には介護サマリーを渡して情報提供し、質問相談に応じている。ソーシャルワーカーとは普段より入居紹介、空室状態等連絡をとり、病院主催の研修にも参加している。	バイタルリンクで利用者の情報を共有しながら、入院時には介護サマリーを医療機関と情報共有し日々、連絡を取り合っている。日頃から利用者の状態を家族に伝え、安心できるよう動画でも見られるよう支援している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針について説明、同意をいただいている。医療行為が必要となった時、主治医とご家族共にカンファレンスを行っている。状態に応じてご本人ご家族の意向を伺いながら、最期まで安心して過ごせるようチーム一丸となり取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期の対応について説明し同意を得ている。利用者・家族の看取り希望は多く、容体変化があった場合は、早い段階で話し合っている。本人・家族の意向を確認し、医師の指導を得ながら、より良い看取りの実践に取り組んでいる。多くの家族から職員への労いの声も届いている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備え、誰もが対応できるよう研修を行い実践している。救急要請の際、落ち着いて対応できるようマニュアルを電話の所に設置し、いつでも確認できるようにしている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し、防災に対する意識の向上に努め、実践できるよう取り組んでいる。普段より地域の方と交流し、災害時に支援者として協力していただけるよう行政、民生委員等を通じて体制を整えられるよう努めている。	年2回消防署指導の下、火災、水害、地震を想定した訓練を実施している。地域住民の助言を受けたり、通報機の操作確認などを行っている。備蓄は定期的に点検し補充している、地元主催の防災訓練にも参加し協力関係を築いている。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に合ったケアを重視し、人格や尊厳を守れるように優しい接遇に努めている。特に言葉使いは職員同士で確認している。	年間研修計画で、人格尊重、プライバシー保護、傾聴等を学んでいる。居室は特に利用者のプライバシーを守るべき大切な場所と考えている。職員は、常に笑顔で穏やかに接しながら、利用者の「ここが一番」の声を励みに理念に沿った支援を実践している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の行動には意思があり、どんな思いがあるのかを見守り対応している。日常の些細なことも意思決定していただくことを大切にしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	度々利用者様の過ごし方は変わるため、職員はご本人の生活ペースに合わせて支援している。習慣を継続していただけるように、18名の生活を把握して心地よい生活ができるように努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の嗜好を知り、栄養を考えた献立作りをしている。季節の果物を収穫したり、調理の下ごしらえを手伝っていただいたりと利用者様に美味しく楽しく食べていただけるよう努めている。	近隣住民の支援を受けながら、法人の農園で育てた野菜が届いている。また、住民からの差し入れも活用し、栄養士による指導の下、個々の状態に配慮した献立で3食手作りしている。利用者も出来る範囲で手伝っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の身体の状態に合わせて、毎日の栄養やカロリー、水分量を決めて支援している。食事形態も個々に合わせて、無理なく召し上がれるように工夫している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯のある人は歯磨きをしていただき、入れ歯の人ははずして洗い、口腔内が清潔に保たれるように支援している。口腔内のトラブルがある時は協力歯科医に相談している。	食後、自分で歯磨きができる利用者は、職員が見守りを行い、入れ歯の人は職員が手伝いながら清潔を保てるよう支援している。利用者も口腔ケアの大切さを理解している。職員は、個々の状態を把握し、必要な場合は歯科医師に相談、指導を得ている。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を作成し、一人ひとりの排泄周期や変化を理解して介助を行えるようにしている。利用者様が自力で排泄ができるように支援や見守りを行うが、排泄に失敗があった時には不安にならないよう気を付けて声かけを行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの入浴意思を尊重している。プライバシーを守り、安全確認に注意を置き入浴を実施している。入浴日に入られない方は日時を限定せずに別日での入浴を行う。季節によって入浴回数を増やすなど清潔な環境で過ごせるようにしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間やトイレを記録して一人ひとりのサイクルを理解できるようにしている。寝具メイキングを行い不快感を払拭し、安心して休んでいただけるよう事前の準備を行っている。見回りで安眠されているかの確認を行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人ひとりの薬の目的や用法等について理解し、服薬ができたことを職員が確認して記録を行っている。往診時、主治医に病状の変化を報告している。	全職員で利用者の服薬状況を共有し、薬の目的や副作用について理解をしている。飲み終えるまでの確認と記録を徹底し、服薬の不安な部分は看護師である職員に伝え、主治医に変化を報告しながら対応している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮して、興味がある事や趣味にされていた事に取り組んでいただいている。また、塗り絵やラジオを聴く等一人ひとりに合わせた楽しい時間を過ごせるよう工夫もしている。料理の手伝いや洗濯物をたたむ等の役割を仕事として行っていただいている。	利用者が今までの経験を活かせるよう、役割作りを工夫している。職員の「ありがとう、助かります」の言葉が利用者の喜びとなり、利用者の希望も聞きながら、更なる自立支援に繋げている。	コロナ禍前のレクリエーション活動では、利用者がワクワクしながら参加していた。今後も、希望を聞きながら、利用者中心の楽しい行事を実施できるよう計画中である。実現できることを期待する。
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍が落ち着きつつあるが、まだ不安を払拭できる状況ではないため人が集まる場所への外出は控えているが、近所で季節を感じられる桜・紅葉などの見物や散歩を行っている。また庭のバルコニーにてお茶を飲む、果物を収穫する等のできる範囲での楽しみを支援している。	天候や健康状態を見ながら、バルコニーでの日光浴、庭や近隣の散歩を支援している。法人の野菜畑の見学や手伝いも楽しんでいる。コロナ収束後には、家族との外出も提案し実践する予定であり、年間計画の実施に向けて検討を重ねている。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を持たれている方もありますが、現在は認知症のためご自身での管理は難しく、家族様の管理のもと使用されている方が多い。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望により家族様への電話を取り次いだり、手紙のやり取り等を支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや共有空間などは心穏やかな気持ちになれるよう間接照明を使用したり、季節の花を飾ったり音楽を流すなどしている。また、玄関や窓から見える自然に季節を感じていただいている。	玄関や共用空間の各所に、季節の花や観葉植物を飾っている。窓越しに自然豊かな景色も見る事ができる。懐かしく雰囲気のある家具が設置され、ホテルの一室のような清潔な空間である。安全面にも配慮し場所ごとに寛げる椅子が設けられ、好きな場所で過ごせる工夫がある。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有ルーム等ではお好きな場所で過ごしていただけるようテーブルやソファ、椅子を用意するなど配慮している。皆さんが思い思いの場所で過ごしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族の協力により写真を飾ったり、使い慣れた置物を備えるなど住みやすいように工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は分かりやすいよう表示したり、目印になるものを付けて、迷わず移動できるよう工夫している。また、廊下、室内には手すりがあり、安全に自立した生活が送れるようにしている。		